

第27回 総務文教常任委員会

R5.1.16 (月)10:30～

第二・第三委員会室

開 会 10:24

委員長 ただいまより、第27回総務文教常任委員会を開会をいたします。

委員動静報告

委員長 委員については、全員出席しております。議長に出席していただいております。三上議員、木下議員に傍聴の許可をしています。報道につきましては、株式会社北海道新聞社に取材の許可をしています。

1 所管からの報告事項について

委員長 それでは、1、所管からの報告事項について、総務部、(1)、滝川市公共施設個別施設計画前期計画(案)について説明を求めます。

(1) 滝川市公共施設個別施設計画前期計画(案)について

万年室長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

質疑ございますか。

山 口 2ページの計画期間になりますが、前期計画9年間ということで前期だけでも結構長い年数になるのですけれども、その9年間の中で例えば3年ごとに微調整をしていく考えはありますか。

万年室長 3年ごとという考え、特に何年ごとと決めていませんが、今のこの物価状況等のことも考えますと毎年のように見直していかなければいけないのではないかと考えております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

山 本 これを拝見すると、かなり財政的な支出があるのではないかと予想されるわけですが、結果的に今の情勢だと当初例えば100と言っている110とか120とかに金額が上がっていくのは予想されるわけですが、滝川市の将来に向けて例えば国から補助金をいただいても市債を起こさなければいけないという部分が絶対出てくると思います。それらを含めて財政の硬直化とか、影響度合いというのはどのようにお考えなのか、その辺をお伺いします。

万年室長 物価高騰で今予想できないことも当然あると思いますが、この計画に係る財源といたしましては当然補助金や起債等を考えていきます。ただし、起債償還も含めて一般財源に当たる部分は、ふるさと基金を活用していきたいと思っていますので、普通の予算、通常の予算に迷惑をかけるようなことがないようにしていきたいと考えているところです。

山 本 ふるさと基金については、実際にはそこも限りがある基金でありますので、やっぱり長期的にどのくらいだということを、ちゃんと予想を立てながら示さないとこんなことをやりたいですよといっても滝川市のまちに大きな財政負担があるのであれば同意ができない部分も出てくるのではないかと。やっぱりそういった長期的に財政的な計画も、壊れているから新しいのが要るのだということではなくて、財政的な部分も含めてきちり長期的に滝川市で背伸びをしない程度の計画でなければいけないと思いますが、その辺の考え方を、これは背伸びをしていない計画、滝川市として当然このくらいの範囲は必要だという判断でされた計画なのかだけを最後にお聞きします。

堀之内次長 将来的な方向性についてご心配、ご指摘いただきましてありがとうございます。

まず、我々がシミュレーションを立てた時点では、財源の問題は万年のほうから説明したとおりですが、基本的には対応可能だと考えております。ただ、先ほど言ったように物価高騰の部分で、では計画に立てたから物価高騰しても生き続けるのだというようなところはやっぱり随時判断が必要だと思っています。もう一つは、市債を使う場合、交付税バックの有利な財源のところを目指しておりますが、そこも制度上未来永劫続くかどうかというのは今時点で分かっておりません。そういう意味で財政に与える影響については、常に検討しながらの進みになっていくと思いますので、先ほど山口委員からのご指摘があった部分に答弁したとおり、やはり随時見直しというのが必要になってくるのではないかと思います。ただ、基本的なベースとしては、今進んでいけるだろうということと考えております。

委員 長
柴 田

ほかに質疑ございますか。

1 ページで計画の位置づけを説明していただいたのですが、他の計画との整合を図りながら計画を進めていくということの説明で、どうも私は分かりづらいと思うのですが、この計画を進めてどういうまちが作り上げられるのか、先ほど説明の中で1人当たりの面積は逆に増えてしまうと言っているのですが、例えば子育てを前面に出したまちづくりを進めるということになれば、これはおのずと子供たち1人当たりの面積だとか活動の範囲が広がっていくとか、そういうことを数値化したほうが分かりやすいと思うのです。これだと、致し方ない面は確かにあると思うのですが、他の計画との整合性を図るということではちょっと私としては分かりづらいのかと思うのですが、その点についてお考えがあるのかお伺いしておきたいと思います。

堀之内次長

まず、この計画そのものは、総務省のほうで策定する基本的な指針の中で公共施設の床面積を削る、またその結果どうなりますかというのを載せていくということで、それが基本的な考え方ということで示されており、我々はそれののっとなって策定しているというのがまず1つです。

他の計画との整合性については、総合計画でも説明しているとおおり、今後人口減少が進む中でどういったまちを目指していくのかということの視点と、それから立地適正化計画でいえば一言で言うとコンパクトなまちというようなところを考えております。もちろご指摘いただきました少子化に対して子供に対してどういった施策を打っていくのかというのは、総合計画でも策定しておりますので、そこは詰めていきます。その中でまずは学校の教育の充実という部分でソフト面、それからハード面での充実というところをうたっておりますので、そういう意味ではハード面というところではいけばこの施設の改修なんかを随時進めていくことで教育環境が充実できるのではないかなというふうに思っております。この前期計画で全てを網羅して全部が全部書き切れるかということ、ちょっと書き切れなかった部分もございます。随時進めていくことで最終形態としてそういったまちになればいいのではないかという思いを込めての策定でありますので、ご理解をお願いします。

柴 田

堀之内次長の今の説明のとおりだとは思いますが、ならば、説明の仕方として、まず第1には大幅な床面積を削減するということは大なたを振るわないと駄目なわけですね。そうすると、まず最初に例えば文化機能だとか、福祉機能だとか、その大規模な集約化を取り組まない。その後例えば将来に向かって子供たちの教育、子育てをしっかりと充実させていくというのであれば、減らし

たものをそこに投資していくというような、そういう計画のほうが分かりやすいのではないかと説明の中で私は思ったのですけれども、もう一度次長からお話をいただきたいと思います。

堀之内次長

施設の集約の仕方というのは、いろいろな方向があるというふうに思っています。その中で今委員からご指摘があった文化、福祉施設の大規模な集約化というところがありました。まず、31ページには文化施設ということで、まだちょっと煮詰まっていないところもありますが、基本的には美術自然史館であったり、そういったいわゆる社会教育施設の複合化というのを視野に入れて進めていこうと考えております。この結果を載せれば、床面積の減少のほうにも入っていくのだろうというふうに思っています。今ここは、どうしても1つの場所を含めた問題がありますので、こういう書き方をしているというご理解をいただきたいというふうに思います。中期、後期でやっぱり学校の部分が少し出てくると思います。状況によって早まっていくのかとか、そういったこともあるのかもしれませんが、現時点ではそういった視点で考えておりますので、ご理解いただければと思います。

委員 長
荒 木

ほかに質疑ございますか。

学校関係で2点伺いますが、22ページの施設の方向性、小中高、調理場も含めて見る限り、何となく学区というか、こういうふうになっていくのだろうというのが予想はつくのですけれども、その際こういう計画を立てるときにちょっと難しいかもしれませんが、どうせ建て替えるなら小中一貫みたいな学校を再編すると、そういう考え方がなかったのかどうか、誤解のないように言いますが、小中一貫がいいとは思っているわけではなくて、いいところも悪いところもあるだろうと。ただ、どうしても2か所建てるのなら1か所にまとめて建てたほうがコストの面でもいいし、ある意味滝川市全体の教育の刺激というか、ダイナミズムというか、そういう視点も大事なのかなということでお考えを伺います。

堀之内次長

それと、もう一つ、滝川西高校の維持になっているのですが、それは建物として大丈夫なのでしょうか。そういう不安があるので、この2点を伺います。

小中一貫の話は、学校の再編を進めていく中でこの形にする前に検討会議などかなり回数をやっていますが、その中でも担当部署ともお話が出てきました。ただ、現時点でやっぱりそこに行くのが相当難しいというような所管の意見もありましたし、将来的に進めていく上で中期、後期も含めていく上でそういった議論も出るかもしれません。人口減少のスピード、そういったものも鑑みながら検討していくことになりますので、ご意見や我々としての検討ではありましたが、現時点ではそういう考え方になっています。

滝川西高校につきましては、滝川市立高校でこのままいくのか、それとも道教委への移管などを含めた検討というのがやはりされるべきではあるというふうには考えておりますが、現時点でそこについて相手方もありますし、滝川市として西高の方向性をどうしていくのかということについてはこの段階での議論まで至らなかったものですから、現時点ではまず維持としております。今後いろんなステージで議論されることにはなるのかなというふうに思っていますので、そこに合わせて計画の見直しも出てくるかもしれません。

荒 木

今の答弁でもう一つだけ確認させてください。可能性についてです。西高校は、道への移管も含めてということなのですが、民間への売却ということも可能性

掘之内次長 はありますか。
相当難しいお話ではないかというふうに私の今の個人的な感覚では思っています。民間への売却ということになれば、今ある西高の役割とか、西高自体の生徒、空知ではナンバーワンというような生徒数を誇るわけですし、そういった意味で形態が変わっても西高の役割だとか、そういったものが維持できるというようなところまではさすがに我々としても議論できませんでしたので、現時点では相当難しいのではないかと思っています。

堀 確認したいのですが、当初の予算より130%ぐらい建設費が高騰される予想をされていますが、この物価高に対する要因はどういうところにあるのかまず1点お聞きしたいのと、今後その物価高は下がる可能性もあるのかどうなのか、長期的にはどうなのか、その見解を伺いたいと思います。

万年室長 まず、物価高の要因は、先ほども言いましたけれども、戦争の影響で大きな部分では機械の半導体部分がなかなか手に入らない、聞いている話ですと注文しても期日までに納まるかどうかすら怪しい状況となってきたというのが最近の動向だそうです。これがそのうち下がってくるのかどうか、今の段階ではいろんな民間の方ともお話ししている中では全然先行きは見えない、下がる予測は今はそのようなことは言えないというのは状況として伺っているところです。

堀 ということは、さらに上がるということも考えられるというふうに考えていいのかどうか、伺いたいと思います。

万年室長 残念ながら多分そういうこともあり得ると思います。130%でも実際足りるかどうかすらも分からない状況ですので、もしかしたらもっと上がるのかもしれないということも考えられると思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。
(なしの声あり)

委員長 ないようですので、質疑については終了いたします。
(1) 滝川市公共施設個別施設計画前期計画(案)については、報告済みといたします。

2 その他について

委員長 2、その他について、委員の皆様から何かございますか。
(なしの声あり)

委員長 事務局から何かありますか。
(なしの声あり)

委員長 所管のほうから何かありますか。

万年室長 個別施設計画の今後のスケジュールについて説明させていただきます。本日午後から市民アンケートを実施し、本日付で郵送したいと考えています。期日ですが、今月いっぱい期日でアンケートを実施したいと思っています。また、同時に本日から31日まで、文化団体へのアンケートの実施、そして1月30日から2月24日の間で文化団体とのヒアリングの実施を予定しております。また、パブリックコメントも開始したいと考えていますが、本日から1か月間、2月15日までの間で実施したいと考えています。最終的には、2月下旬ぐらいには前期計画案を成案に持っていきたいというように予定しているところです。

委員長 今全体的なアンケートのスケジュール等でしたが、皆さんから何かありますか。
(なしの声あり)

3 次回委員会の日程について

委員長 3、次回委員会の日程につきましては委員長、副委員長に一任願いたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長 そのようにいたします。

それでは、第27回総務文教常任委員会を閉会いたします。

閉 会 11:04

第27回 総務文教常任委員会

日 時 令和5年1月16日(月)

午前10時30分

場 所 第二・第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶(委員動静)

1 所管からの報告事項について

《総務部》

(1) 滝川市公共施設個別施設計画前期計画(案)について

(資料) 企画課公共施設再編推進室

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

令和5年1月12日

滝川市議会議長 関 藤 龍 也 様

滝川市長 前 田 康 吉
滝川市教育委員会教育長 田 中 嘉 樹

総務文教常任委員会への説明員の出席について

令和5年1月5日付け滝議第120号にて通知がありました第27回総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いいたします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いいたします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部長	和 田 英 昭
総務部次長	堀之内 孝 則
総務部企画課長	平 川 泰 之
総務部企画課主事	奥 家 睦
総務部企画課公共施設再編推進室長	万 年 英 人
総務部財政課係長	常 盤 彰 彦

滝川市教育委員会教育長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育部社会教育課長	運 上 琢 諭
-----------	---------

(総務部総務課法制文書係)